岐阜米穀㈱　メールマガジン

今回のテーマは「肥料高騰 アフリカ編」

アフリカの深刻な食料危機が懸念される。国連食糧農業機関（ＦＡＯ）は、西アフリカの2730 万人が食料危機に苦しんでいるとの「食料危機早期警告報告書」を公表した。食料危機人口は 2019 年以降、4 倍に増えたという。天候不順による穀物生産の落ち込みに加え、新型コロナ禍によるマクロ経済指標の悪化が重なった。

報告書は、昨年の調査を基に作成した。ロシアによるウクライナ侵攻の影響を盛り込んでいない。その要因を加えると迅速な人道支援がないままだと、食料危機人口が 3830 万人に膨らむとみられる。
アフリカには海外穀物に依存する国がたくさんあります。世界有数の小麦やトウモロコシ、ヒマワリ油などの輸出国であるロシアとウクライナの輸出停滞によって国際価格が高騰し、それらの国に大きな打撃を与えている。英「エコノミスト」誌は「第一次世界大戦以来の食料危機が世界の貧困層を直撃する可能性がある」と警鐘を鳴らす。

食料危機の要因は、これにとどまらない。肥料の入手困難による減産も懸念だ。ロシアとベラルーシの肥料の輸出量は世界の 2 割を占める。世界銀行によると、肥料価格は昨年から軒並み上昇し、アンモニア価格は 80%も高騰した。ベラルーシとロシアに対する国際制裁や中国の輸出規制で、22 年には肥料価格がさらに 30%上昇。アフリカの肥料使用が一段と減る恐れがある。
コロンビアでは有機農業を進める為の試験を行った結果、2 年で 2 割の穀物の生産減が発生しています。これは外貨不足でとられた政策でもありますが。

アフリカの小規模農家は、化学肥料の使用が少なく、慢性的な農業低生産性に悩まされてきました。18 年の 1 ヘクタール当たりの肥料投入量は、西アフリカのブルキナファソやナイジェリアでは世界平均の 15%相当の 20 キロで、穀物収量は同 34%に当たる 1.5 トンにとどまった。
複合的な要因で悪化するアフリカの食料危機は、国際社会が協調して解決することが急務です。食料や肥料、燃料の生産国は、輸出規制を見直し、脆弱な小規模農家への支援を強化する必要があります。日本は面積当たりの化学肥料の使用量が世界の中でとびぬけて高い

ことがあげられます。